

幸福の唯一の条件（新しき世界へ 1972 年 6 月号）

続「新しき人種七段階」

Georges Ohsawa

(1)

幸福な人生を始めるためにはいろいろな方法がある。

多くは東洋的な精神的なモノで、各種の宗教や修行、ヨーガのような肉体の体育的な方法までイロイロある。西洋的、科学的なモノには健康法や医学的なモノがあるが、幸福を旗じるしにしたモノはほとんどない。

スイスの聖者ヒルティのモノなどリッパニ「幸福論」と銘はうってあるが、キリスト教的な、道徳的な、精神修養であって、ダレにも完全には実行するコトが困難なモノである。

社会的な、ハデナ行動的なモノ(例ーマルキシズム)で物質的な幸福を確保し、人生の幸福を確保できると主張するモノが、空手形であるコトはイズレ分るだろう。ステニ分っている人も相当ある。科学的な幸福確保の方法は今のところマダ出ていない。否ムシロ反対に科学による幸福な人生と云うモノが絶対あり得ない。科学文明の終点は水バク戦争で全人類の滅亡を確保している。

とは云え、私は社会革命を否定するモノではケツシテないコトを君たちは知りぬいている。私をムシロ科学や社会革命のトップに立つモノである、ときめている人もたくさんある。

ハッキリ断っておこう！

私はイカナル社会革命や文明や進歩に反対するモノではない。原バクの発明にさえ深い敬意を払うモノである。原バク戦争だって実に壮快であると感嘆しているモノである。

私はドンナ創造にもドンナ破カイにも拍手を送るモノである。私は無限の自由と永遠の幸福のためになされる努力であれば、よし間違ったコトでも大いに協力を惜しまない。

医学のような、この世で最も哀れな無知の奴レイの血を吸って生きている渡世に対しては私は満腔の讃辞を送るのにヤブサカではない。ましてソナ科学や医学に頼る政治渡世などと云う気の毒な役ワリを買って出る、判断力の低い人々に対しては同情を禁じない。

しかし私は政治家にも医者にも、革命家にも仲間入りをしなかったコトを、私にしては大出来だったと思っている。ホントーを云えば、花々しい悲惨な革命運動の先頭に立って、当然無残な最期をとげるような悲劇的性格を生れながら多分に、ダレにも劣らずもっている人間である。若くして死んで行った母の性格を身につけている私である。

母は新しい科学の教える生活法を勇しく 100%守って斃れた。その母の精神を私は七十になった今日まで、堅固に守っている。三つ子のタマシイと云うモノである。男の子はスベテ原則として女親の精神を一生のピストンにしているモノと私は思う。父親の感化など云うモノは極めて消極的である。私は母性礼讃を長い詩にかいたコトがある。二十数年も前

だ。(「新しき栄養学」の序文の長い詩)。あの心で今も私は生きている。

だから私のこの七十年間の言行はスベテ母の精神の実現であった。それは一言にして云えば「正義」に飢えかつ渴くモノの行動である。

(2)

私は朝から晩まで、夜はユメの中でも母と共に一秒もはなれずに生きている。母のネライを刻々実現して私は生きて来た。これはモー死ぬまでつづく。

母は科学文明、医学、栄養学を「正義」だと思って、全力全心をかけて貧しい生活をつづけた。スベテ日本人は西洋の学問を東洋の学問の如く、正義を教えるモノ、人生で最上のモノを教えるモノだと思う。西洋の学問は全て渡世の技術であって、東洋のような聖者の教えではない。恩、義、仁、礼、孝、忠、安、信など云うコトバは西洋にはない。似たコトバはあるが、内容やその社会構造は全く似ても似つかないものである。

モチロン、師弟、知友、夫婦のチカイなど云うモノはニオイもない。今度ジャネットと言う私の娘になったベルギー娘と結婚するコトになった私の子、元 MI 生が今日彼女の父なる大学教授に結婚の承認を求めに行つてオドロイテ帰つて来た。

ーこちらでは結婚と云うモノをリッパナ法律的契約と、思っているのですね？！

・・タクサン契約書を要求されました。

クリムは始めて西洋の家や社会が法律と宗教と云う暴力でガンジガラメにしばられているモノで、「所謂法治国」と云う構造をもっているコトを知つた。ガツカリしたらしい。

ー私が死ぬと財産は私の二人の娘に二分されるが、ジャネットの分にアナタは絶対手をつけられないコトを契約できるか。

と云われてクリムは、たださえ返事を言下にしないクセがあるから、サゾ相手に不安を与えようと、思う。

ーまた、かりに君が娘と離婚するとなると財産の半分をもってゆく権利があるのだが、ソナコトをゼツタイにしないと云うコトを契約できるか。

と来た時にはクリムはいっそう見当がつかなくなつたろう。日本人には想像も出来ないコトだから……。

トニカク、辯護士と相談の上で契約書を作る、と云う父の申し出を OK してホウホウの体でクリムは退却して来た。これが△性な日本人だったら、

ー何を云っているんだ。日本人を知らないのか。我々は惚れた以上、地ゴクの釜の中まで一緒にゆくんだ。財産を二分するナンテそんなケチな気はユメにも知らないんだ。命を二分するコトが出来るか！夫婦は一つなんだ。夫婦の仲まで二分律で考えたり、形式論理学でわり切ったりできると思うのか！

とタンカをサンザン切る所だ。▽性のクリムはウィ、ウィ、ムッシューで退却してきたらしい。私は心のソコにムラムラッとわき立つモノを感じたが、クリムにしてみれば大成功である。ジャネットは余りクリムにボロクソに云われるので、十日ほど前にアスピリン

を一ビンのんで自殺を企てた。

私は今日まで何も知らなかったのだが、先週の高等講習の後でワザワザアントワープからやって来た彼女を見かけると、近よって顔や手をシゲシゲ見た。何かしら不吉な陰悪な感じをうけたのである。

スルトその夜、彼女はモー妊娠六ヵ月になっているコトや、自殺に失敗したコトや、その原因がトテモ彼に愛されるコトは六カシイと、思ったからだと云うコトを手紙にしてよこした。ソレを見て私はビックリした。自殺が成幼していたら、ノレこそ「大学教授の娘(妊娠六ヵ月)自殺す。日本青年に捨てられて」と云うような大醜聞が流れ、我々はモーこの美しいエラスムスの国にはいられなくなつたろう。

PU運動にもリマ工場にも大へんな悪影響を与えたらう。

そこでイソイデ彼女をアントワープからよびよせて、話して見た。彼女はボロクノに叱る、と云うコトは、愛のハゲシイ成長である、と云うコトを知らない。憎しみだと取ったのである。これは此頃の日本の女性にでも見られるコトであるから西洋人にはムリもない。

一女をうつなかれ！ 花をもってしても！（アルベール・サマンの詩）と云う国である。男と女の位置が逆の国である。男は女の奴隷である国だ。

しかしそのフランスにも次のようなコトワザがあるからオモシロイ。

Qui aime bien chatie bien.

一ヨク愛するモノはヨク罰する。こんな格言はよくある。しかしモーゼの十誡同様、ソレを実生活にうけ取る人は全くいないらしい。大体こちらの格言らしい格言はラテン語から来ている。フランス土産のモノではない。

(3)

シナでは幸福の内容を五つに分けている。

(1)寿 (2)福 (3)康寧 (4)好修徳 (5)考終命。

(1) 長き人生を生き

(2) 金銭にクヨクヨせず

(3) 安心立命

(4) 身をもって徳を修めるコトを好み

(5) 有終の美をなさんコトをツネに思う。または修身、齐家、治国、平天下。

身を修め、一家をなし、国を治め、世界を正しくし、平けくせん。

西洋の幸福と云うのは、全く似ても似つかないモノである。ウェブスター大辞典、ラルース、リットレなどを見ると、長々と説明してあるが結論はオドロクベキものである。

一この世では得がたいもの。

一好運、チャンス。

一完全な幸福と云うモノはこの地上にはない。等々々

ゼミナリーで聞いたところを総合してみると、こちらの人の幸福と云うモノは、

第一は富、第二も富、第三も富、第四も富、第五も富。

要するに金がカタキである。イエスがコキ下している金銀財宝が最大、最上のモノとなっている。ソレだから、科学が最上の学となり、工業が最大のモノとなり、全人類滅亡戦にたどりついたのは当然である。

つまり、西洋は私の云う判断力の七つの段階の第四段が最高の判断力になっている国である。第四でも結構であるが、第五、第六、コトに第七を取入れたら科学ソレ自身もスバラシイものになると思う。

しかし、第七を最初から説く東洋は、六、五四……を軽く見、ツイニ現代見るが如き西洋文明の植民地になってしまった。ソレでも日本では第三が西洋で見ないホド発達している。日本の愛情は悉皆律第七判断力を原理にしている。俗歌にでも「お前となれば何のその、地獄の釜のソコまでも、……」と云う。ポール・クローデル仏大使はコンナ俗歌をスゴイ訳詩集にして残している。

ミチオが食慾の七つの段階を巧みにかいたように、愛情の七つの段階を君もかいて見たまえ。第一、第二の愛は西洋(または現代風)愛情で、全くプランクトンかアミーバ的、第一か、あるいは犬ネコのその時その場次第の第二の恋、性慾である。

ソレは実にオモシロイ狂乱、淫乱、痴愚の生態である。ソレも第七判断力を最高最大のネライとする国であるから、ソノ影響をうけて実に徹底している。それだから、西鶴や近松や歌麿が生れたのは当然である。この文学だけは世界に比を見ない。ヘンリー・ミラアやモーパッサンも恥入るばかりである。(ただしピエール・ルイスやロオデンバックの恋は格外)。

この第一、第二の恋や愛を徹底的に生きぬく情熱がない限り、第三、第四の恋愛はできない。怨めしいかな、西洋では黄金萬能主義交換主義経済思想のオカゲで、ソナ馬鹿な恋や愛は流行しない。恋も愛も契約行為、経済行為であり、つまり西洋人の愛や恋は第一、第二判断力による行為であるが、理想は第五の経済的判断力に示されている。

私の恋愛至上主義は徹底的必死の恋愛である。生ヌルイ、日ナ夕水のような、浮気の沙汰ではない。女から女へ、男から男へフラリフリと身をひるがえしてゆくような軽い、性慾のヒモ付きの囚人のようなアサマシイものではない。

だから相手が姦通でもしようモノなら、一刀両断にする。ソレが出来ないくらいなら、相手を幸福にするコトはモチロン、自分をも幸福に出来るモノではない。

つまり私の恋愛は相手を幸福にするコトである。私の云う幸福は無限の自由と絶対の正義と、永遠の幸福である。その恋愛を徹底したモノ、すなわちエラスムスの云ったように、全人類、全畜類、全草木、全宇宙を熱愛するモノが第七の愛情である。

たった一人の異性のために全身、全力をこめて、愛するヨロコビを味つたモノでないなら、このエラスムスの愛情、いわゆるイツクシミ、カナシミ育む心のヨロコビの大きさを

想像するコトはできない。

モチロン、相手にウラ切られて、目さきがマッ暗になるような悲痛をなめないモノには分らない。ソナナ悲痛さの分らないモノはマダ人を愛したコトのないモノである。第一の恋、プランクトンの恋しか知らないモノである。

青春ともなれば、人は恋をする。ソレはモチロン第六天▽△ポラリゼーションの著しい発動である。ケレドモそれは、第七天の無差別、無限絶対の愛情にのびるべきモノである。しかしソレがかえって、第一、第二の愛情におちて止るモノもある。これは畜類の正体のバケの皮のやぶれた姿である。人の本体(判断力)を見るにはその恋愛行動(性行為)を見るがよい。畜類 **humanimal** 人種の、コトにサラリーマンなどは実に見事な典型的なオモシロイ畜道のドレイの恋をする。

(4)

私の云う幸福の最大唯一の条件は、シナ風なモノでもないし、ヒルティや、デカルトや、ショウペンハウエルや、実にエラスムス風なモノでさえない。

それは一言にして云えば『人間たるコト！』自由意志の確立につきる。そして人間たることとは、私が一生といてきた宇宙の秩序の模型図のスパイラルの体得にある。

この世の差別相、多種多様相が第七無限絶対無差別相の分化である。人間の本体は精神、霊である。そのハタラキが記憶や、判断や意志である。

この差別相の世界と、無差別相の世界の間の六段階こそ、人間の往還する永遠のスパイラルの道すじである。

云いかえると、人間の幸福はそのフルサトの国籍(第七無限天)をハッキリ自覚するコトである。それは永遠、絶対、無限、それ自体の『ただ一つなるモノ』である。

つまり統一感、一体全体観、我も人も一つ、全世界は一つ、体こそ千万億に分化し異なれ、心はただ一つ、不可分である、コトをハッキリ自覚するコトである。

自他を区別しないのである。だから、別離と云うモノはない。全世界の人間が一体なのである。他人と云うモノがないのである。だから争いもない。ネタミもウラミもウラヤミもない。

モチロン哀れみやナサケもない。哀れみだのナサケだの云う心がチリほどでもあるなら、モ一それこそ二元論者、自他差別人である。

私はイツモ正食人はインセパラブル(永久に別れぬ人)である、と云って来た。

同じサンソを吸い、同じ光に温められ、同じ水をのんでいるモノ、同じ母胎大地の乳や血をすっていきっているモノは兄弟姉妹である。兄弟姉妹のエニシは法律や暴力で切れたり、むすばれたりするモノではない。まして親子、同胞、主従、夫婦、師弟、親友などとなったモノは、一生別れるコトはできない。よし意見がちがいが、主義を異にしても、それは第六以下の判断力の相違であるから、第七判断力においては絶対に別れたり、まして対立したりはできない。そこには所有も絶望も、別離もチカイも、義務も権利もない。契約のな

い世界、自由な世界、自他一体、一体全体、億兆一心である。

対立とか、絶交とか云うコトは御都合主義であり、二元論者である。それは絶対、無限を知らない自白である。よし、師友としたモノが、ちがった意見や主張に走ったにもせよ、袂別すると云うコトはあり得ない。

義絶と云うコトバもあるが、ソレはアクマデ主義主張の異なる行動のセイであって、最高判断力ではイツモ一元でなくてはならない。義絶を断言するモノは二元論者である。相手がより大きな愛をもっている限り、非は自分にある。負けである。

師弟親子、親分子分の間で、師や親にイカニ無謀な非道な行いがあっても、師や親をすて去ると云うコトはできない。これは孝や礼の社会構造の原理で精神の優越である。忠は孝や礼よりもモット深い。それは宇宙を貫くモノ(即ち中)(無双原理)を心とするモノである(今中の思想)。軍国主義者や御用学者がソレを悪用したのは詮もない。亡びゆくのが当然である。

主義、主張や行動が反しても、それは自分が第六判断力に住んでいるからである。それをキッカケニ自己ヒハンをし、第七天判断力に達していないコトを反省するヨスガとすべきである。

まして、自分の行動の非を責める親、兄弟、親分、師友に、見解の相違である、と断言して、去ってゆくにいたっては言語道断の無批判ーゴーマンである。こんなヒクイ判断力があるから人生は波乱万丈になり、オモシロイのである。

(5)

こんなコトを私は七十になって、子供たちの行動から教えられた。私はコンナコトは云うまでもないコトと思っていたのである。要するに、私の云いたいコト、云わねばならないコトはこれだ。

世界中のPUの友よ、正食の友よ！フシギな縁あってむすばれ無限の自由と、永遠の幸せと、絶対の正義の道を共にすすむ友よ！

別れてはいけない。すててはいけない！たとえイカナル無理解な友であっても別れてはいけない。

ナゼナラ無限の自由、永遠の幸せ、絶対の正義は一つしかないのだから！

それは一元の天国だから、君が師友、親兄弟親分をすてたら、君は二元の低判断力の対立の国に移住したコトを意味する。たとえイカニ争っても、闘っても、すて去るコトはするな！

兄弟はイツマデも、死んでも兄弟なんだ。相手にマチガイがあると云うのなら、ソレを分りやすく教えるのが道だ。ソレを分らせられないのなら、自分がマダ第七判断力に達していないのだから一層努力をすべきである。

たとえワンの水でも一粒の飯でも、恩は恩である。万倍にして返さない限り、永遠に負債である。忘恩であり、ゴーマンであり、排他性である。私は私の一つの命を拾っても

らったから、石塚左玄先生の御恩に報いるため、一粒万倍で万人の命を拾うコトに一生をかけてやって来た。万人を百万人にしても同じである。

万人と云うのは一万人と云うコトではなく、スベテの人と云うイミである。一粒万倍を私はこう解して来た。一事が万事と云うコトバである。それは実は恩返しでなく、幸せと自由と正義を体得し体現するコトである。

コレを道としてゆくモノのみが無限の自由、永遠の幸せ、絶対の正義の国の市民権を得るのである。

(6)

幸福の唯一の条件がバカに長くなってしまった。表現のヘタクソな私である。

おまけに、その唯一の条件が消極的なネガティブな、「……スルナカレ」口調になっているのは悲しい。私の一生をかけて説いて来た正食と PU の道は、モーゼの十誡のような「なかれ訓」ではない。

無条件無手勝流である。「…すべし」さえも使わないのが私のホコリである。たった一つ「よくかむコト」と云う条件だけが、条件らしい訓令らしいモノである。

ソレなのに今回は「別れるナ」、ドンナことがあっても別れるコトだけはするな!と云う「ナカレ」主義を出してしまった。

これは新しく発見した人種の七つの段階の第六以下、第一までの人々に云うコトバであって、第七の人には必要のないモノである。

(7)

しかしヨク考えて見ると、この「ナカレ主義」の条件は実は無用なモノである。

去るモノをして去らしめよ。

この一元無双の道を去るモノは、まだ二元論者であるからマダ、プランクトン道から畜道あたりを歩いているモノである。やがて順次に、数億年かかって第七天に上ってくるのである。ソレをムリに第七天人のマネをせよ、と云うコトは無用である。無茶であり、無効である。ただ第七天の近くまで来て迷っているモノには、暗夜の灯火のように役立つだろう。

ただ正食あるのみ。

正食の効果にウタガイをもつのは、正食(第七号食またはソレに近いモノ)をミッチリ真剣に血マミレになって少くとも十年以上、やったコトのないモノが受ける当然のムクイである。邪食を一度やったモノは、それまでの全ての行の効果を失う。ソナナ低判断力の間人が、第七判断力の結晶である PU 実用弁証法を幼稚な単純な思考証明であって、精密な実験研究でないからダメであるとするのは、単純な幼稚なゴーマンさである。

原子物理学は、その精密な実験的研究でツイニ宇宙の根本単位が電子、陽子、中性子らしいと云う二元論、三元論の単純な結論にまで達して自殺の一步手前にある。これも畜道

の旅路の涯の物語である。やがては科学も一元に達したい、ネガイをもっている。

(61.12.19.G.O.L.#3378 「新しき世界へ」 314号より)

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください